



住める くらせる 東京に

日本共産党
都議会議員

せいの恵子 都政レポート

No.010 2025年10月号

発行・日本共産党・せいの恵子事務所
〒114-0032 北区中十条2-11-6
☎3906-2821 FAX 3906-3225

せいの 都議会 で初質問

都議が

生きづらさ抱える人に寄り添い、一緒に行動できる存在に



←質問の視聴は
こちらから

10月2日、せいの恵子都議が都議会本会議で初めての一般質問に。公務員、看護師、保健師、区議としての経験をふまえ、「生きづらさ抱える人に寄り添い、問題解決に向け一緒に行動できる存在になりたい」と論戦に挑みました。

医療 介護

身体合併症があり緊急性が高い患者など困難を抱えるケースに対応するのが都立病院。「**病床や人員を削減することで、その役割を後退させてはならないのでは**」と問いました。また、報酬改定によって減収となり、閉鎖に追い込まれようとしている**訪問介護事業所に、報酬引き下げを補う支援**を行うよう求めました。

障害者

障害児・者支援について、**障害福祉の所得制限をなくし、放課後デイの利用料を無償化**するよう要請。「障害があっても安心して余暇を過ごせる居場所を持つことは当たり前前の権利だ」と、**余暇支援の拡充を提案**、福祉局長は「地域の実情に応じた居場所の確保ができるよう引き続き取り組んでいく」と答えました。

再開発

国が市街地再開発に対する補助対象を「必要性・緊急性の高い事業」に絞り込んだのに、**北区が対象から外れた赤羽駅前再開発で補助金を獲得するため画策**していることを告発。都が、再開発ありきではなく「**本当に住民のためのものなのか**」という立場で、自治体などからの相談に当たるよう求めました。

都民の切実な願いを 質問に込めて

せいの 恵子

今回の初質問では、都立豊島病院の精神科ナースとしての経験、訪問介護事業所が廃業を決めたとお聞きした時の残念で悔しい気持ち、障害者団体の「当事者お悩み相談会」で一緒にみなさんの笑顔、駅前再開発は本当に住民のための計画なのかと声を上げるみなさんの運動を思いおこし、何度も試行錯誤しながら質問を練り上げました。

野党会派に対しては厳しい答弁の小池都政ですが、党都議団は都民の願いを込めた質問を積み重ねて都政を動かしてきました。私の質問もその一つになったと感じています。

これからも、みなさんの声を受け止め、ともに歩いていく決意で頑張ります。

駆けつけた傍聴者と懇談

せいの都議は質問終了後、都庁内で駆けつけた傍聴者と懇談しました。参加した支援者の感想を紹介します。

登壇から存在感を放つ、せいのさんの姿に「まってました」と無言の叫び。初質問は医療・介護・障害者と弱者に寄り添った現場の声。この人を送り出せて良かった。(鴻巣市・泉典子)



せいのさんの質問は具体的かつ解決策も網羅した実践的なものでした。翻って小池知事や都の幹部は、何ともそっけない答弁。これからも粘って追い詰めてほしい。(飛鳥山・植草修)



傍聴者と懇談する、せいの都議